

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌医療秘書福祉＆ＩＴ専門学校

学科名：医療保育科

授業科目名	単位数
英語ⅠＡ	1
英語ⅠＢ	1
保育原理Ａ	1
保育原理Ｂ	1
保育者論Ａ	1
保育者論Ｂ	1
保育の心理学ⅠＡ	1
保育の心理学ⅠＢ	1
社会福祉Ａ	1
社会福祉Ｂ	1
合計	10

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語 I A		
必修選択	選択	(学則表記)	英語 I A		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①保育の英会話 ②学習の手引き		出版社	①萌文書林 ②小田原短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	園生活で英語が必要とされることがあるため、英語での対応が必要になった時に役立てることができるように練習を十分取り入れ、文法力・単語力および基礎的な会話力を習得する。		
到達目標	外国人の子どもや保護者が入園した際に役立つ英語や、園生活等で必要とする文法・単語・熟語を理解し基本的な会話をすることができる。		
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない		
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	英語 I B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	D a r c y L e w i s	実務経験	○
実務内容	専門学校非常勤講師として 15 年勤務、塾講師、英会話講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育の英会話への第一歩	【第1講】英会話の楽しさについて Unit 1: First Step to Childcare English
3	みなと保育園にようこそ	【第2講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 2: Welcome to Minato Nursery School
4	時間と数	【第3講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 3: Time and Numbers
5	地図と道案内	【第4講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 4: Directions

6	クラスメイトとの出会い	【第 5 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi
7	デイヴィーの登園と降園	【第 6 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up
8	保育者の仕事	【第 7 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 7: Jobs at Nursery School
9	保育者の仕事	【第 7 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 7: Jobs at Nursery School
10	昼食	【第 8 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 8: Lunchtime
11	昼食	【第 8 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 8: Lunchtime
12	排泄に関する会話	【第 9 講】状況に応じたコミュニケーションを学ぶ。 Unit 9: Toilet Dialog
13	けんか	【第 10 講】状況に応じたコミュニケーションを学ぶ。 Unit 10: Fighting
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語 I B		
必修選択	選択	(学則表記)	英語 I B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①保育の英会話 ②学習の手引き		出版社	①萌文書林 ②小田原短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	テキストにある「英語ミニ知識」「保育ミニ知識」を活用し 英語の常識や他国の習慣にも目を向け、国際感覚を養い、英語が高まる学習をする。		
到達目標	園生活で必要とする英会話を使ってコミュニケーションを取ることができる。		
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。		
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	英語ⅠA		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	D a r c y L e w i s	実務経験	○
実務内容	専門学校非常勤講師として 15 年勤務、塾講師、英会話講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	けがと病気	【第 11 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 11: Injuries and Illnesses
3	けがと病気	【第 11 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 11: Injuries and Illnesses
4	電話での対応	【第 12 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 12: Telephone Calls
5	遠足	【第 13 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 13: Field Trip

6	赤ちゃんのケア	【第 14 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 14: Baby Care
7	赤ちゃんのケア	【第 14 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 14: Baby Care
8	卒園	【第 15 講】状況に応じたコミュニケーションについて Unit 15 Graduation Day
9	修得確認	テストの実施
10	修得確認	テストの実施
11	総まとめ	第 1～5 講のまとめ
12	総まとめ	第 6～10 講のまとめ
13	総まとめ	第 11～15 講のまとめ
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育原理 A		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理 A		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	① 生活事例からはじめる保育原理 第 5 版 ②平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 ③学習の手引き			出版社	①青踏社 ②チャイルド社 ③小田原短期大学
科目の基礎情報②					
授業のねらい	「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に保育者に求められる専門性について理解し、保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく。				
到達目標	保育の歴史と変遷を知り、子どもの発達や生活や遊びについて述べるができる。 保育実践の事例を拾い、他の人と共有できるように書くことができる。				
評価基準	修得確認：50% 授業態度：30% 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20% 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	保育原理 B/保育者論 A・B/乳児保育 A・B/保育カリキュラム論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	渡邊 衣	実務経験		○	
実務内容	幼稚園教諭 3 年、学研 19 年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育を学ぶということ	「保育」について
3	保育を学ぶということ	「保育」について
4	子ども理解	子どもについて

5	子ども観・保育観	日本の保育思想について
6	子ども観・保育観	日本の保育思想について
7	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規について
8	幼稚園・保育所・ 認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能について
9	幼稚園・保育所・ 認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能について
10	保育の目標と内容	保育の目標と内容について
11	保育の目標と内容	保育の目標と内容について
12	保育の内容	「領域」の考え方について
13	保育の内容	幼稚園教育要領における保育内容について
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育原理 B		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理 B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	① 生活事例からはじめる保育原理 第 5 版 ②平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 ③学習の手引き			出版社	①青踏社 ②チャイルド社 ③小田原短期大学

科目の基礎情報②

授業のねらい	「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に保育者に求められる専門性について理解し、保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく。		
到達目標	保育者に求められる専門性について、保育の現状と課題について述べることができる。		
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない		
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	保育原理 A/保育者論 A・B/乳児保育 A・B/保育カリキュラム論 A・B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	渡邊 衣	実務経験	○
実務内容	幼稚園教諭 3 年、学研 19 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育の計画と評価	保育の計画と評価について
3	保育の計画と評価	保育の計画と評価について
4	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違いについて

5	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違いについて
6	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題について
7	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について
8	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について
9	修得確認	テストの実施
10	修得確認	テストの実施
11	総まとめ	第 1～5 講のまとめ
12	総まとめ	第 6～10 講のまとめ
13	総まとめ	第 11～15 講のまとめ
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育者論 A		
必修選択	必修	(学則表記)	保育者論 A		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①保育者論－主体性のある保育者を目指して		出版社	①萌文書林	
	②学習の手引き			②小田原短期大学	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	本授業では「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及していく。教職の意義、その役割や資質能力、職務内容について言及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。				
到達目標	専門職としての保育者の専門性を理解する。 保育者に求められている役割を理解する。 自分なりの保育観を確立する。 保育者の制度的な位置づけを理解する。 保育者の仕事と役割を理解する。 保育者間の協働、関連機関との連携、保護者との連携について理解する。				
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	保育者論 B/保育原理 A・B/乳児保育 A・B/保育カリキュラム論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	會曾川 里紗		実務経験	○	
実務内容	幼稚園教諭 17 年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	保育者とは	保育、保育者について
3	幼稚園教諭とは	幼稚園教諭の役割について
4	保育士とは	保育士の役割について

5	保育教諭および施設で働く保育者とは	保育教諭と施設で働く保育者の役割について
6	保育者に求められる倫理	子どもの最善の利益について
7	保育者の制度的位置付け	保育者の法的な定義について
8	保育者の資質・能力	保育者の専門性について
9	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて
10	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて
11	保育の質の向上	保育の質の向上について
12	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCA サイクルについて
13	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCA サイクルについて
14	修得確認	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育者論 B		
必修選択	必修	(学則表記)	保育者論 B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①保育者論－主体性のある保育者を目指して		出版社	①萌文書林	
	②学習の手引き			②小田原短期大学	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	本授業では「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及していく。教職の意義、その役割や資質能力、職務内容について言及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。				
到達目標	専門職としての保育者の専門性を理解する。 保育者に求められている役割を理解する。 自分なりの保育観を確立する。 保育者の制度的な位置づけを理解する。 保育者の仕事と役割を理解する。 保育者間の協働、関連機関との連携、保護者との連携について理解する。				
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	保育者論 A/保育原理 A・B/乳児保育 A・B/保育カリキュラム論 A・B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	會曾川 里紗		実務経験	○	
実務内容	幼稚園教諭 17 年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法について
2	園内の保育者チームおよび家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について
3	園内の保育者チームおよび家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について
4	専門機関や地域との連携	保育者として連携すべき様々な専門機関等について

5	専門機関や地域との連携	保育者として連携すべき様々な専門機関等について
6	保育者の葛藤と成長	保育者としての葛藤について
7	保育の現代的な問題	保育者として働き続けるための心の持ち様、必要なスキルについて
8	保育者を目指すあなたへ	これまでの保育者論の学びについて
9	修得確認	テストの実施
10	修得確認	テストの実施
11	総まとめ	第 1～5 講のまとめ
12	総まとめ	第 6～10 講のまとめ
13	総まとめ	第 11～15 講のまとめ
14	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育の心理学ⅠA		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学ⅠA		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①実践につながる新しい保育の心理学		出版社	①ミネルヴァ書房	
	②学習の手引き			②小田原短期大学	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について習得する。 主体的な遊びや学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付ける。				
到達目標	子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を実践に生かすことができる。 保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を述べる事ができる。				
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・期末テスト（修得確認）：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許				
関連科目	子ども家庭支援の心理学 A、子ども家庭支援の心理学 B、保育の心理学ⅠB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	王 怡		実務経験	○	
実務内容	心理士として 6 年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 子どもの発達を理解する意義	授業の流れ、到達目標について 保育者が子どもの発達を学ぶ意義について①（第 1 章）
2	子どもの発達を 理解することの意義	保育者が子どもの発達を学ぶ意義について②（第 1 章）
3	子どもの発達と環境	子どもの発達に影響を与える環境について①（第 2 章）
4	子どもの発達と環境	子どもの発達に影響を与える環境について②（第 2 章）
5	子ども観・保育観と 発達理論からの視点	子ども観、保育観の歴史的な展開と、発達理論の子どもに対する視点について①（第 3 章）

6	子ども観・保育観と 発達理論からの視点	子ども観、保育観の歴史的な展開と、発達理論の子どもに対する視点について②（第 3 章）
7	社会情動的発達	社会情動的発達について①（第 4 章）
8	社会情動的発達	社会情動的発達について②（第 4 章）
9	身体機能と運動機能の発達	身体機能や運動機能（全身運動と手指の操作）の発達について①（第 5 章）
10	身体機能と運動機能の発達	身体機能や運動機能（全身運動と手指の操作）の発達について②（第 5 章）
11	認知の発達	ピアジェの発達理論から認知の発達について①（第 6 章）
12	認知の発達	ピアジェの発達理論から認知の発達について②（第 6 章）
13	言語の発達	言語発達について（第 7 章）
14	期末テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学 I B		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学 I B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①実践につながる新しい保育の心理学 ②学習の手引き		出版社	①ミネルヴァ書房 ②小田原短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について習得する。 主体的な遊びや学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付ける。		
到達目標	子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を実践に生かすことができる。 保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を述べる事ができる。		
評価基準	学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％・期末テスト（修得確認）：50％・授業態度：30％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。		
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭免許		
関連科目	子ども家庭支援の心理学 A、子どもの家庭支援の心理学 B、保育の心理学 I A		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	王 怡	実務経験	○
実務内容	心理士として 6 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション アセスメント	後期の授業の流れ、到達目標について アセスメントの種類や意義、発達障害等支援の必要な子どもの特性について①（第8章）
2	アセスメント	アセスメントの種類や意義、発達障害等支援の必要な子どもの特性について②（第8章）
3	0、1、2歳の発達	誕生から2歳ごろまでの発達の特徴と発達課題について① （第9章）
4	0、1、2歳の発達	誕生から2歳ごろまでの発達の特徴と発達課題について② （第9章）
5	3、4、5歳の発達	3歳～5歳の発達の特徴と発達課題について①（第10章）

6	3、4、5 歳の発達	3 歳～5 歳の発達の特徴と発達課題について②（第 10 章）
7	学童期から青年期までの発達	学童期、青年期の特徴について（第 11 章）
8	成人期から老年期までの発達	成人期の心理とライフイベントに伴う心理的葛藤について 老年期の加齢に伴う現象と成熟する側面について（第 12 章）
9	乳幼児期の学びに関する理論	学びに関する理論について（第 13 章）
10	乳幼児期の学び（遊び）の 過程と特性	「遊ぶこと」の意味や遊びの機能について（第 14 章）
11	乳幼児期の学び（遊び）を 支える保育	主体的に遊ぶということについて（第 15 章）
12	まとめ	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえた発達の視点について①
13	まとめ	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえた発達の視点について②
14	期末テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会福祉 A		
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉 A		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①生活事例からはじめる 新版 社会福祉 第 10 版 ②学習の手引き		出版社	①青踏社 ②小田原短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士は、児童福祉法に位置づけられた専門職である。子どもは、家庭・地域社会など、様々な環境の影響を受けており、現代社会を生きる子どもを保育する時、福祉的な視点から家庭の実態や生活課題を把握することは必要不可欠である。本教科目では、歴史的背景から社会福祉の考え方、人間観を多面的に学ぶとともに、現代の社会福祉の制度・政策を学習する。これらを通し社会福祉の対象者を理解し実践するための基礎を得る。		
到達目標	① 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について説明できる。 ② 社会福祉の制度や実施体系について説明できる。 ③ 社会福祉における相談援助について説明できる。		
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。		
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	保育士資格		
関連科目	社会福祉 B、子ども家庭福祉 A/B、社会的養護Ⅰ A/B、子ども家庭支援論 A/B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鈴木 珠世	実務経験	○
実務内容	社会社会福祉施設 7 年（介護士・相談業務）、音楽療法 12 年 カウンセリングオフィスにて心理カウンセラー 2 年、専門学校心理カウンセラー 2 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、達成目標について
2	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、「ノーマライゼーション」について（第 1 章 1-1、1-2）

3	社会福祉の理念と課題②	社会福祉の「ニーズ」「社会参加」について（第 1 章 1-3、1-4）
4	社会福祉の理念と課題②	社会福祉の「ニーズ」「社会参加」について（第 1 章 1-3、1-4）
5	社会福祉の理念と課題③	社会福祉を支援する上での「自立」「平等」とは何かについて（第 1 章 1-5、1-6）
6	社会福祉の理念と課題③	社会福祉を支援する上での「自立」「平等」とは何かについて（第 1 章 1-5、1-6）
7	社会福祉の歴史的変遷①	貧困問題の取り組みや貧富の原因、歴史的変遷について（第 1 章 2-1、2-2）
8	社会福祉の歴史的変遷①	貧困問題の取り組みや貧富の原因、歴史的変遷について（第 1 章 2-1、2-2）
9	社会福祉の歴史的変遷②	国民の福祉の保障と、福祉を支援するのは誰かについて（第 1 章 2-3）
10	社会福祉の歴史的変遷②	国民の福祉の保障と、福祉を支援するのは誰かについて（第 1 章 2-3）
11	社会福祉と児童家庭福祉	社会福祉と子ども家庭福祉の関連性について（第 1 章 3-1、3-2、3-3）
12	社会福祉と児童家庭福祉	社会福祉と子ども家庭福祉の関連性について（第 1 章 3-1、3-2、3-3）
13	児童の権利擁護	「子どもの人権擁護」に基づく支援のあり方について（第 1 章 3-4）
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会福祉 B		
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉 B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	医療保育科	1	15
使用教材	①生活事例からはじめる 新版 社会福祉 第 10 版 ②学習の手引き		出版社	①青踏社 ②小田原短期大学	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育士は、児童福祉法に位置づけられた専門職である。子どもは、家庭・地域社会など、様々な環境の影響を受けており、現代社会を生きる子どもを保育する時、福祉的な視点から家庭の実態や生活課題を把握することは必要不可欠である。本教科目では、歴史的背景から社会福祉の考え方、人間観を多面的に学ぶとともに、現代の社会福祉の制度・政策を学習する。これらを通し社会福祉の対象者を理解し実践するための基礎を得る。		
到達目標	① 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて説明できる。 ② 社会福祉の動向と課題について説明できる。		
評価基準	修得確認：50％ 授業態度：30％ 学習の手引き（理解度テスト・レポートテスト）：20％ 科目修得試験結果（可否）は専門学校の成績に影響しない。		
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	保育士資格		
関連科目	社会福祉 A、子ども家庭福祉 A/B、社会的養護Ⅰ A/B、子ども家庭支援論 A/B		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鈴木 珠世	実務経験	○
実務内容	社会社会福祉施設 7 年（介護士・相談業務）、音楽療法 12 年 カウンセリングオフィスにて心理カウンセラー 2 年、専門学校心理カウンセラー 2 年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、達成目標について
2	社会福祉の制度①	「社会福祉にかかわる法律」について（第 2 章 1-1）
3	社会福祉の制度②	「福祉の政策主体」や「社会福祉施設」について（第 2 章 1-2～1-4）

4	社会福祉の制度②	「福祉の政策主体」や「社会福祉施設」について（第 2 章 1-2～1-4）
5	社会保険	「社会保険」の仕組み、「社会福祉の専門職」について（第 2 章 2-1～3-2）
6	利用者を保護する仕組み	「第三者評価」「苦情解決の仕組み」「権利擁護」について（第 2 章 4-1～4-3）
7	社会福祉における相談援助①	社会福祉の専門技術、相談援助の基礎について（第 3 章 1-1～1-4）
8	社会福祉における相談援助②	「ケースワーク」「グループワーク」の方法について（第 3 章 2-1～2-3）
9	社会福祉における相談援助②	「ケースワーク」「グループワーク」の方法について（第 3 章 2-1～2-3）
10	社会福祉の動向と課題①	少子高齢化における社会福祉の動向について（第 4 章 1-1～1-4）
11	社会福祉の動向と課題②	共生社会の実現と障害者施策の概要について（第 4 章 2-1～3-3）
12	総まとめ①	社会福祉の制度や実施体系について
13	総まとめ②	社会福祉における相談援助について
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ④	テストの振り返りと総まとめ